

意外に知らないタバコ病



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで、人を診る、総合診療を目指す。医学博士。日本禁煙学会専門指導者。51歳。ブログ(<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/>)が好評。

日々の外来診療で感じることは、クリニックを受診される方に、たばこを吸う方がとても多いことです。風邪でせきが出ない方の大半は喫煙者。たばこの害といえば肺がんを思い浮かべる方が多いかと思いますが。確かに肺がんはがんのトップで難儀な病気です。しかし、同じ肺の病気でもたばこが関係する病気が



肺がん、認知症まで影響

で、絶対に忘れてはならないのがCOPD(慢性閉塞性肺疾患)です。街中で酸素を吸っておられる方の多くはCOPD患者さんです。昔は肺気腫

腫といいました。このCOPDこそが、日本に500万人もの患者さんがいる「ザ・タバコ病」です。進行すれば酸素吸入が必要で、命に直結する病気です。

たばこがんで最も関係が深いのは、実は喉頭がんです。喫煙者は確率が33倍も高くなります。その他、口腔がん、食道がん、ぼうこうがんなどが特に関係の深いがん

COPD(慢性閉塞性肺疾患) たばこの煙など有害な空気を吸い込むことで、空気の通り道の気道や酸素の交換を行う肺胞などに障害が起る病気の総称を指す。進行すると、息切れ、せき、たんなどの症状が出る。原因の9割は喫煙。胸部X線やスパイロメーターによる呼吸機能検査で診断する。

す。次にたばこ関係の深い病気が心筋梗塞、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症という循環器系の病気。さらに糖尿病や高血圧にも深く関係しています。これらはたばこをやめるだけで確実に改善します。

禁煙講座はこの話題から入ると必ず身を乗り出して聞いてくれます。さらに最近の研究では、たばこはなんと認知症とも関係が深いことも分かっています。誰もがなりたくない病気No.1です。その他、腰痛や骨粗しょう症とも関係しています。

初めまして、尼崎市で開業している「Dr和」と申します。今回から町医者としての視点で病気を介護に関する四方山話をお届けします。まずは、たばこの話を連載します。

ひょうい